遠近新聞

第廿八號

定價一匁

西垣文庫
文庫10
7265
26

特文庫10
7265
26

帝國圖書館藏

遠近新聞第二十八号

慶應四年六月三日

○ようのうたさ第一番千八百六十八年第三月廿四日日本慶應四年三月朔日佛蘭西の都巴理出版日本文の新聞紙より抄出

子ウトル。ソレイテイの事

子ウトル。ソレイテイと言ふ言葉いどちらする片よらぬ仲間といふこゝろあり是ハ戦争の砌り其場ハて深手を負ひ打倒ハ立つ事あらざる者ハりて味方そもを以抱ハる中俄ハ敵ハ襲ハ其怪我人を救ふことあり生其侭捨て去り後ハ敵ハ殺さ或ひい

西園文庫
5737

とりことありしを手ごめにいとまきしに共
ありとて瑞士國の思ひ舟にてその怪我人を介抱せ
る仲間を立んとて中出し歐羅巴の人々其い善きを
ありとて互ひに誓約をさして其仲間い子ウトル。ソレ
イテイといふて敵にてあり亦味方にてあり只戰ひ
の折柄いその場に出て双方の怪我人を介抱せ此の
人々い白地の赤き十文字の袖印を付くその為に
ある人々い変て手出しをすることを定む若し戰
ひの間に手傷を負ひたる者ならば子ウトル仲
間直に馳せつけ介抱せ又その辺の家の屋上に白地

に赤き十文字の旗敵地に攻め入り度をかりとる其
旗を翻せ家に入て近寄ることを定む若しそ
の約を欺き子ウトル仲間をいとめ或い殺し又い其
家を悩ます或いこれに事ならば其盟しをる國々に
て其咎を正しくその罪に行ふと定む只魯西亞國と
合衆亜米利加いまだ其盟にあづかるとかや

新發明火器の事

歐羅巴諸国常に先を競ひ便利なるものを見出さん
とつとむ近年ヒジー。アエギウューユといふ元込の
小銃を發明せしこのかさ歐羅巴のいくさぞろい全

くかとまり中まもプロイス國い人は先立て早く右の元込を小銃を用ひていろさぞるを人をなろうめ故は今欧羅巴第一と称せらる先はプロイス慶應二年ヲーストリア国と戰ひのさざこの小銃を以て大ひは打勝ーしめーいり夫より他の國々そまを習て各軍ぞるひを改めんを專ら努むる但ー佛蘭西い人のすひをもるを辱ぢ已も新は發明せーシヤスポを佛蘭西中の持用と定め夥ーー造らしめり既は昨慶應三年の秋ローマ国乱のこぎり佛蘭西軍兵をさーもけ名高きガルバルジー名人を打ー折柄も

このシヤスポ銃すて大ひは利ありとりふ今又右のシヤスポ銃を造るをを止め猶新なる鉄炮を造らむもは筒拵は僅の間ーてうちこのもる習ひるまば人は勝もて便利あるをを發明ーー已も先立む事を待とむるを欧羅巴の常ともされば一事も他國は勝まーをを見出せば最も勢を得るもるは已もあこうて人の工夫を待ち真似のこー他より買求て足まりとまる國々い人の跡を蹈むのこるーを他はい最早古ーと為て捨る頃漸くその古き器を買ひ求め徒らは金銭を費はのこるーを却てその笑をまねーのを

○上総佐貫の阿部駿河守事城を明渡し佐倉へ預け置其身は菩提所へあゆみ謹慎して居られしへ去る十七日の事へ近辺へ脱走の体の者二十人斗り来られ村々より兵粮を取り立てられ趣き菩提所へ其の聞へ有るへより早速使ひを佐貫へ遣ち在城の佐倉兵へ告げ為られ之へより佐倉兵い定めて其者の押寄せる事の有るへんとて用意して待構へられしへ夜半へ至りても一向其沙汰なきへ果て為を〻しへものどろ〻〻頃へ俄へ家老の屋鋪へ出ぞへ火を付て破り入る者有りしへうば佐倉兵い出い敵の攻め寄られるへありとて諸所へ手分して防戦し大砲を打出しられるへ敵い當り難くや思ひけん忽ち逃げ走りて影も形ちもなくなられ右攻め入りし時脱走兵と見べし者の数い分明なられ佐倉の兵い凡百人程の由なり斯て佐倉の兵い又も敵の攻め寄せる事なるへんを恐れられるへや翌日国許へ立帰り兵を増して出張し此度い妨げ崎へ屯ろして脱走兵の穿鑿頻りなり之へより近國穏なられぞとなり

○

武州川越より戰爭有之ハ趣きまて去月廿四五日頃
官軍の早打ちはよび怪我人板橋街道より着廿六日
官軍方板橋ヱ向ひ彈薬を送り出せ一由

○

飯能ヱ於てハ去月廿三日の後も度々戰爭こゝあり
官軍方ハ詳ならぬ一方ハ獵人百姓あらびヱ長脇差
とやこと廿六七日頃尾州の勢八王子ヱ向ひ操出し
ヱ成りはす

○大磯より来りし人の話

平塚大磯辺の松原まて樹木を伐倒して往来をさ

まけ或ひハ樹木をシヤチまて上ヱつゝ置き人
往来もる時そもを下げる拾ヱ仕掛有之ハ
大磯ヱ逗留の諸家中等のものハ馬入川の明きらを
を見て皆江戸へ引返もよ
双方より宿屋ヱ来りて人別改嚴しく
川崎ハ固ハ長州藝州備■今一家と都合四家まて
人数凡そ三千人程のよ又其外小田原辺まて諸所
ヱ人数の手配り有之よ
先日伊達[illegible]江戸出立大磯まて行きしハ或る夜
其宿まて主従とも行方知もぜヱ成りしよ如何

ある事なれば未だ詳あらざる
江川の農兵は地理に悉しく勿論山坂を上り下り
まるるも甚だ熟練して其働き無双のよしなりと
いふ
小田原は何方のものなれば軍艦三艘ありと俄に着岸し
大砲を打しまより双方とも驚きて出兵せしに其軍
艦の兵は穏やかなる小田原に着しなりとい